

(5) 教養コース

教科科目	科目の特徴	科目の目標
芸術と文明	21世紀初頭の一時期、人文学が軽視される風潮があったとしても、人文的知識は現代の人間が心豊かに生きていくために有用なものであり、このことは揺らぐものではない。本講義では、世界の歴史において各地域で展開した東西諸文明と、これを代表するすぐれた芸術作品～絵画・彫刻・建築・詩・小説・演劇など～をとりあげ、人類文化を考察する。	21世紀の世界を、教養をもって心豊かに生きていけるよう、長いスパンでの指導目標を実践していく。
外国語（英会話）	外国の人々とコミュニケーションをとるためには、英語の習得は欠かせない。海外はもちろん日本においても外国人との交流が盛んになり、今やどのような分野で活躍するにしても、英語の必要性は増している。授業では、様々なシチュエーションに基づいた「実際に使える英語」の習得をめざす。	授業では、海外旅行や留学をするときによく遭遇すると思われる、様々なシチュエーションに基づいた「実際に使える英語」の習得をめざす。
情報処理演習Ⅰ	コンピューターを常識として活用する能力「コンピューター・リテラシー」を養うことを目的とする。パーソナル・コンピューター及び情報機器・媒体についての知識を学び、その操作・活用ができるように授業を進める。	コンピューター及び情報機器・媒体についての知識を学び、その操作・活用ができると共に、文部科学省後援の「文書デザイン検定」などの上級検定試験の合格をめざす。
法学概論	法とはなにか、法の適用、裁判の基準となるもの、法の体系、日本国憲法などについて学ぶ。	現代社会を生きる市民として必要不可欠な法に関する知識を修得する。法とは何か、法の適用、日本国憲法の理念と基本、立憲主義などについて学ぶ。
リベラルアーツⅠ （日本語）	日本語を読み、書き、話す総合的な能力を、高等学校卒業レベルからさらに短期大学卒業レベルにまで引き上げ、豊かな言語能力を養う。基本的な漢字の習得、文章の読解から始まり、わかりやすい適格な文章の作成に至るまでを並行して学んでいく。言葉の豊かな世界を味わえるようになるための、基本的な能力を養成する。	日本語を読み、書き、話す総合的な能力を、高等学校卒業レベルからさらに短期大学卒業レベルまで引き上げ、豊かな言語能力を養う。
リベラルアーツⅡ （生活の数学）	生活の中での教養として求められる数学の知識を身につけ、一社会人として必要な数学的思考力の向上を図る。具体的には、代数・幾何・解析・確率及び統計などの基礎的・基本的な知識を培う。	卒業後、社会人として恥ずかしくないだけの数学的知識と教養を身につけられるようにしたい。
ゼミナールⅠ	少人数の編成でディスカッションを積極的に採り入れ、学生の自発的な参加による双方向性の授業を展開していく。指導教員の下、ゼミ形式で、あるテーマに関する研究発表や議論・講読やボランティア活動などを展開する。	課題発見能力・レポートにまとめる能力。プレゼンテーション能力を養う。
キャリアデザイン概論Ⅰ	新しい環境の中で人間関係を築きコミュニケーション力を身につける。授業を通して様々な自分と出会い、アイデンティティや自分の強みを見出す。就労模擬体験から就労イメージを持ち、先の就職活動や社会に出ることへの内発的な動機付けとしたい。	様々な学びからの自己発見。学友と協働し、課題に取り組むことでコミュニケーションの楽しさや試行錯誤から答えを創る面白さを見出し、学びに対して意欲を持つ。
キャリアデザイン概論Ⅱ	自由な発想、行動表現を培うために、自己肯定感が充実するように学ぶ。	演劇スキルを中心に、短期大学士としての教養を身につけ、就職活動に役立つ表現を学ぶ。